建物疎開中の生徒は爆心地付近で被爆。その時生徒一人が防空壕内で小用中強烈な閃光が走り、壕より出て見たら先生、生徒全員が爆死していた。驚いたその生徒は今の平和公園前より、原爆被爆で炎上中の火炎を潜り南観音町の学校に「先生、生徒全員爆死。場所は瀬川倉庫の付近」この報告により幸いにも市立商業学校の先生、生徒の被爆死の地点が特定出来た。

広島西部の学校の建物疎開は白神神社より西に向い、作業の進行が爆心地点に近寄る方向となり被爆時は爆心地より距離が五百メートルで原爆被爆により壊滅的損害となった。

広島東部の学校の建物疎開は東に向い、作業の進行が爆心地点より遠ざかる方向となり被爆時は爆心地よりの距離が千五百メートルぐらいであり、西に向かった学校の生徒犠牲者約九十パーセント以上に対し、東に向かった学校の生徒の犠牲はすくなかった。

この様にして広島平和公園前の百メートル道路・平和大通りの基礎は、広島市内の中等学校生徒の一年生を主力とする血による建設作業で出来上がったのであり、私の集計では被爆による学徒の死者総数は四千五百名程度と推察している。

尚当時防火道路として南北三本の四十メートルの道路は、百メートル道路建設開始後広島近郊の中等学校の生徒が動員され建設されたのであります。

防火道路建設に当たって原爆被爆死した学徒の総数は七千名以上と記録されている。

建物疎開作業着手時、指導的立場にありながら国の命令と言え、君たちと最後まで共に作業する事が出来ず、十二歳と十三歳の君たち約四千五百名の犠牲者を出した事を謹んでお詫び致します。

原爆被爆で大半の先生、生徒を失った為、広島の平和大通「百メートル防火道路」の建設経過を知る人は少なく、人々の記憶から完全に消え去ろうとしている。この「百メートル防火道路」は原爆被爆の破壊力が想像を絶する火炎の規模であった為火災の延焼防止には役立たなかったが、原爆の被爆即死以外で負傷した多くの人達が、この防火道路で火炎を避けここを通り、比治山に避難出来たのは周知の事実である。

原爆被爆の半径は三キロメートルに及び半径二キロメートル以内は完全に消失し、広島は完全に廃墟と化